

令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立西部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立西部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	141人

1. 使用状況

寄贈物品名	アクアロングチューブ
使用学年及び人数	小学部1年生から高等部3年生
使用頻度	光を使った学習中は毎日(1~2か月程度)
使用状況	<p><小学部> 年間を通した使用頻度 (50回程度) ○单元名 遊びの学習「西特ラボで遊ぼう」 (全27回のうち27回使用) ○使用の方法 ・暗くした教室でアクアロングチューブを光らせ、その動きを見る。 ・手や指を動かしてアクアロングチューブのスイッチを動かし、光らせる。</p> <p><中学部> 年間を通した使用頻度 (19回程度) ○单元名 夜空ノムコウヘレッツゴー! (全19回のうち19回使用) ○使用の仕方 ・暗い部屋の中で生徒が光の変化の様子に気付いて表出をすることをねらった学習の中で使用した。アクアロングチューブは暗い部屋の中に置き、生徒が光るクラゲに注目できるようにした。</p> <p><高等部> 年間を通した使用頻度 (20回程度) ○单元名 「光のクリスマス」(全15回のうち15回使用) ○使用の仕方 ・クリスマスソングを聴きながら、イルミネーションの一環として観たり、触れたりして楽しんだ。</p> <p><その他> ・常に教室に置き、休み時間にアクアロングチューブの中のクラゲを見て楽しんでいる。 ・昼休みにも楽しんでいる。</p>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・光るクラゲを見たいという気持ちから、アクアロングチューブに接続したスイッチを自ら手を動かして押すなどして、アクアロングチューブを点灯させた。 ・個々に合わせた様々な姿勢で光るクラゲや色が変わる様子をよく見ていた。 ・光の色の変化に気づいて楽しむ姿が見られた。 ・光だけでなく、振動に気が付いて触れて楽しむ生徒もいた。 ・学習発表会でも使用し、保護者にも大好評であった。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の児童生徒にとって、光を使った学習は、受け取りやすい感覚刺激である。また満たされた環境、楽しみや安らぎを共有できる雰囲気を作り出すことができるというメリットがある。特に、緊張が強い児童生徒にとって、リラクゼーションできる場となる。これらのねらいは、達成されており、教育効果は大きいと考える。 ・今後は、訪問教育等、幅広いの児童生徒を対象とした活用を図っていければよいと考えている。
その他希望や所感など	

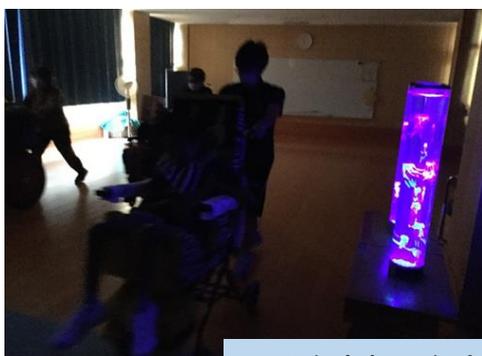
2. 活用の様子



光るクラゲや色が変わる様子をよく見ていました。



アクアロングチューブに接続した青いスイッチを手を動かして押し、アクアロングチューブを点灯させました。



みんなきれいな光に注目しています。



じっと見入る様子が印象的です。



様々な姿勢で楽しみました。